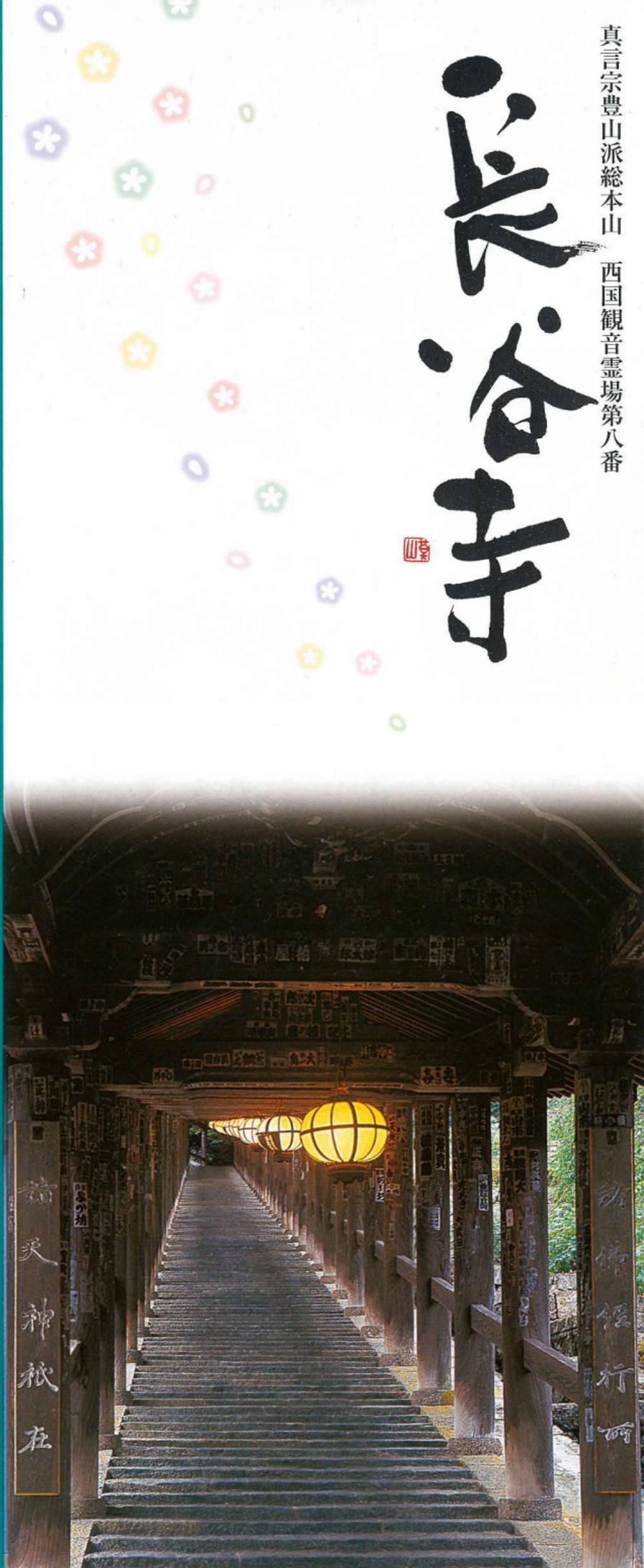


真言宗豊山派総本山 西国観音霊場第八番

長谷寺



諸天神祇在

諸佛經行所

長谷寺縁起と伽藍

仏様と寺宝

心身が疲れたら、おのぼりください。

紫式部さんにも褒めていただきました。

四季折々、一年通してお参りください。

長谷寺境内図／交通のご案内



国宝本堂 徳川三代将軍家光公のご寄進によって慶安三年(1650年)に建立。入母屋造の正堂と礼堂からなる双堂(ならびどう)形式で、前面に懸造りの舞台が付く大建造物です。平成16年12月、国宝に指定されています(境内図内①)。

長谷寺縁起と伽藍

長谷寺は、山号を豊山ぶせんと号し、朱鳥元年(686年)、道明上人が天武天皇のために「銅板法華説相図」を初瀬山西の岡に安置したことにはじまり、のち神亀四年(727年)、徳道上人が聖武天皇の勅願によってご本尊十一面観世音菩薩を東の岡にお祀りになりました。徳道上人は観音信仰にあつく、西国三十三所観音霊場を開かれた大徳として知られ、長谷寺はその根本道場とも呼ばれるゆえんであり、初瀬詣、長谷信仰は全国に広まりました。

下って天正十六年(1588年)の頃、専誉僧正がご入山されてより、長谷寺は関係寺院三千ヶ寺を有する真言宗豊山派の総本山として、また西国三十三所第八番札所として、檀信徒は約二百万人、四季を通じて「花の御寺」として多くのの人々の信仰をあつめています。

のぼりろう
仁王門・登廊など 仁王門(境内図内③)は平安時代、一条天皇の御代にはじめて建立されました。現在の門は明治18年(1885年)の再建で、上に掲げる額は後陽成天皇の御宸筆です。登廊は春日社司中臣信清が、観音様の靈験によってご子息の病気が回復したことのお礼に長暦3年(1039年)寄進建立されました。現在の下・中登廊は明治22年の再建です。鐘楼は藤原定家に「尾上(おのえ)の鐘」と詠まれ、「未来鐘」とも称します。



見どころ

時を知らせる鐘と法螺貝

朝六時には鐘楼(境内図内②)から時を知らせる鐘が、正午には鐘と法螺貝の音が響き渡ります。千年の昔から絶えることなく続く長谷寺の習わしです。

見どころ



本堂（境内図内①）では毎日午前十一時より、御本尊十一面観世音菩薩の御宝前にて法要が行われています。この法要では皆様の各種御祈禱、御先祖様の供養が行われています。

大きさに感動、見上げる 十二面観音菩薩立像。



見どころ



本堂から西に下ったところにあるお茶処。境内散策の足を休める休憩所であるこの場所に、新しく売店（境内図内④）が開設されました。長谷寺参拝の思い出に、喜んでいただける品々を取り揃えてお待ちしております。

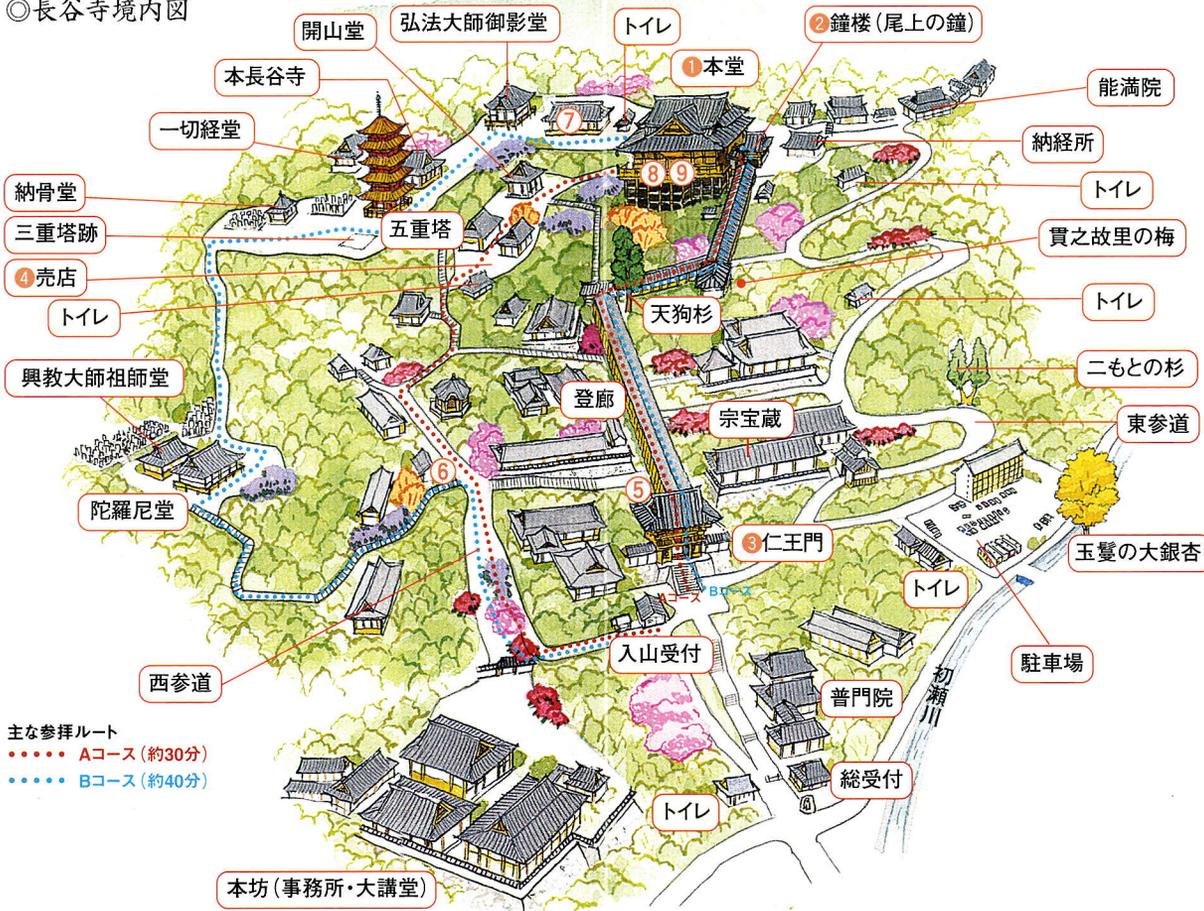
長谷寺参拝の記念に、 売店のご案内。

- 寺宝一覽 ◎は国宝 ○は重要文化財
- ◎ 銅板法華説相図／白鳳時代
- ◎ 法華経／鎌倉時代
- 十一面観音菩薩立像／木造漆箔／室町時代
- 兩宝童子立像／木造彩色／室町時代
- 難陀龍王立像／木造彩色／鎌倉時代
- 銅造十一面観音菩薩立像／銅造鍍金／鎌倉時代
- 地藏菩薩立像／木造彩色／平安時代
- 宋版一切経／紙本摺写／中国南宋時代

ご本尊 十一面観世音菩薩

近江国高島から来た楠の霊木をもちいて三日間で造り上げたといわれ、全国に広がる長谷観音の根本像です。御身の丈三丈三尺（十メートル余）、右手に錫杖を持ち、平らな石（大磐石）の上に立つ独特なお姿をしています。これは観音様の特別なお徳を表し、人々の願いに対する慈悲の深さを示しています。現在の御像は天文7年（1538年）東大寺仏生院実清良学の作と伝えられ、両脇には難陀龍王と兩宝童子が仕えています。

◎長谷寺境内図



主な参拝ルート

- Aコース (約30分)
- Bコース (約40分)

本坊 (事務所・大講堂)

■交通のご案内



◎近鉄大阪線長谷寺駅から徒歩約15分。



総本山 長谷寺

〒633-0193 奈良県桜井市初瀬731-1 TEL.0744(47)7001 <http://www.hasedera.or.jp>
各種祈禱、先祖供養等承っております。詳しくは上記電話番号までご連絡ください。

花の御寺

長谷寺

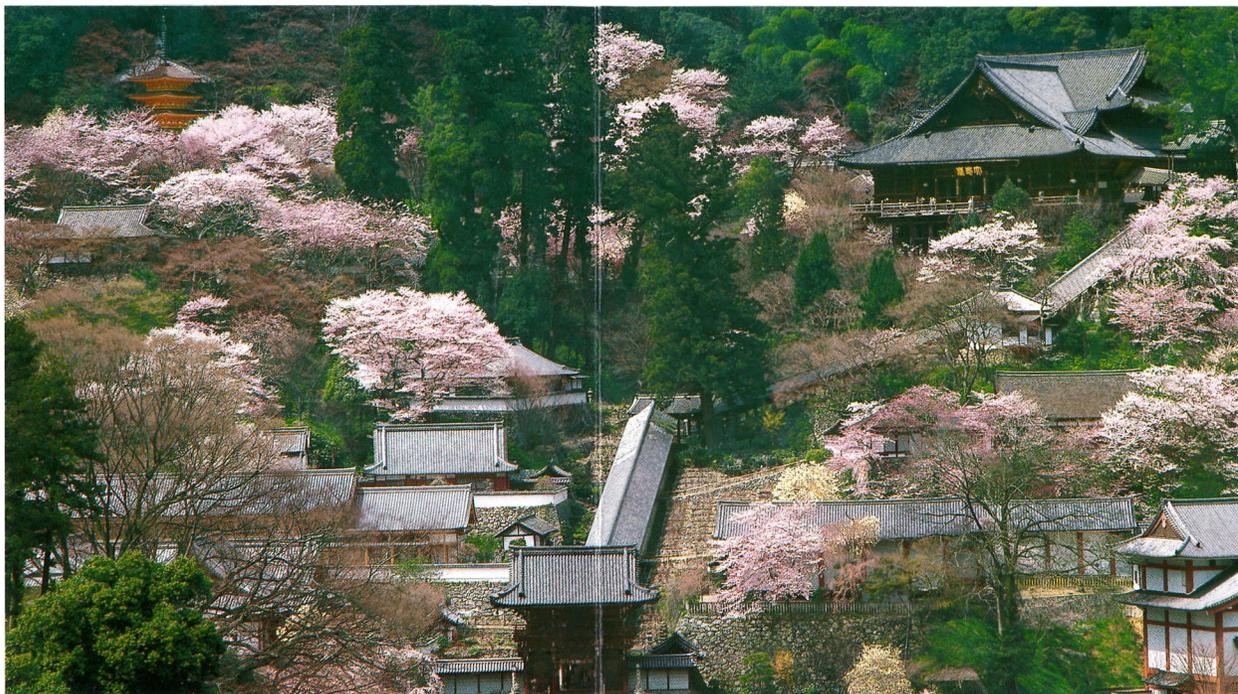


別名花の御寺と呼ばれています。ごあいさつ

四季おりおり観音さまを荘厳して咲く花々をごらんください。

一年中、長谷寺の境内は花に、行事に彩られます。花譜・年中行事





全国に知られる「牡丹の長谷寺」。唐の皇妃、馬頭夫人が観音さまの靈験を得たお礼に牡丹を献木したのがはじまりといわれ、今では150種、約7000株の牡丹が咲き競っています。【地図ビューポイント⑤】

松尾芭蕉をはじめ、古くから文人たちの魂を揺さぶったという、長谷寺の桜。桜の花の中に本堂、五重塔が浮かぶ姿は、さながら桜の浄土ともいえるほどの素晴らしさです。

四季折々の花々が
季節ごとに違う表情を醸し出し、
伽藍の美しさを引き立てます。

緑豊かな小初瀬山。その中腹に長谷寺があります。「花の御寺」という名のとおり、春は桜に牡丹、夏は紫陽花、秋は紅葉、冬は寒牡丹…と、一年を通じて花々が境内に彩りを添え、色とりどりの美しさを見せてくれます。



長谷寺の紅葉は色合いがとても豊か。本堂の舞台に立つと、繊細で華麗な風景が視界いっぱい広がります。【地図ビューポイント⑥】

自慢の景色です。
とにかく、飛鳥時代から続く
お寺の紅葉ですから。

シンシンシンシン…
ここでは雪の降る音が
聞こえます。

冬

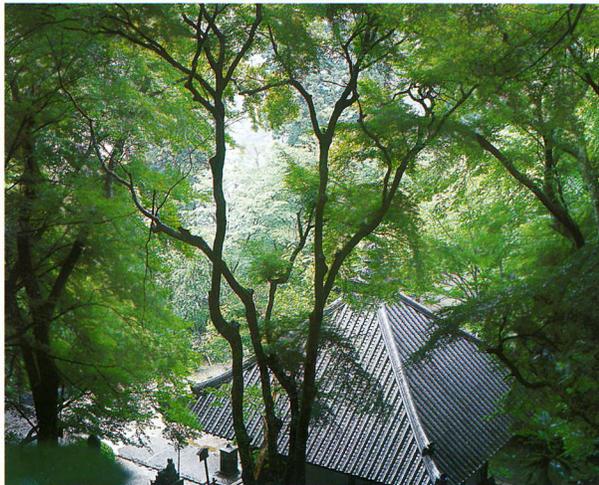
秋



新緑の季節を迎えると、8000株もの紫陽花が咲き誇ります。【地図ビューポイント⑥】

昔の人は紫陽花が
色変わりするさまを
恋人の心変わりに
なぞらえて
いたそうです。

みずみずしい青葉・若葉が光り輝く6月。ひと雨ごとに緑はぎらめきを増していきます。【地図ビューポイント⑦】



紀貫之が愛おしんだ梅、
松尾芭蕉が楽しんだ
桜があります。

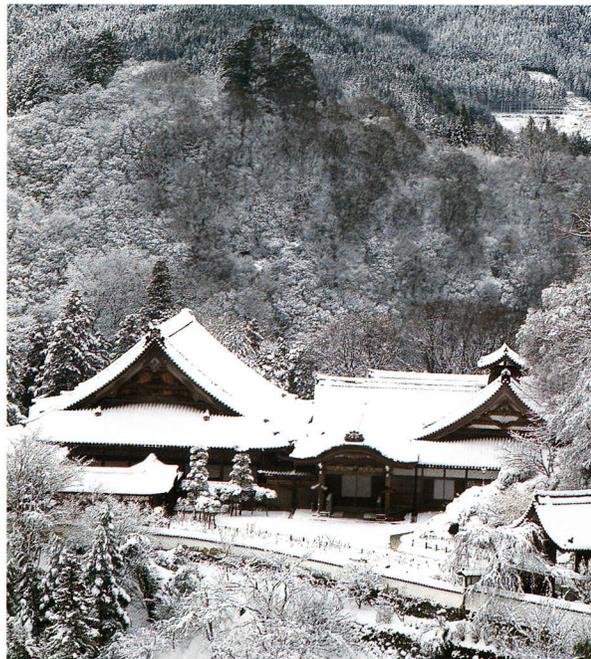
春

夏

◎花譜

- 一月 寒桜 寒牡丹 山茶花 臘梅 福寿草 雪割草
- 二月 寒桜 山茶花 臘梅 福寿草 梅 椿
- 三月 寒桜 梅 椿 さんしゅゆ ねんぎょう 桜(枝垂れ・山桜・染井・初瀬・奈良八重・紅枝垂れ)
- 四月 れんぎょう 桜(枝垂れ・山桜・染井・初瀬・奈良八重・紅枝垂れ) 雪柳 木蓮
- 五月 山吹 牡丹 つつじ・さつき・平戸 芍薬 日本石楠花 花蘇芳 鉄せん
- 六月 西洋石楠花 藤 花水木
- 七月 沙羅双樹(夏椿) 鉄せん 西洋石楠花 藤 雪下 紫陽花
- 八月 のうぜんかずら 大山蓮華 泰山木 姫空木 白丁花
- 九月 鉄せん 紫陽花 のうぜんかずら 百日紅 夾竹桃 蓮 水蓮
- 十月 芙蓉 夾竹桃 萩(白・赤) 彼岸花
- 十一月 もみじ 秋明菊 満天星躑躅 藤袴 木犀 十日桜
- 十二月 寒桜 寒牡丹 山茶花

堂塔や木々が雪の薄化粧をまとう冬。寒牡丹が雪景色を彩ります。【地図ビューポイント⑨】



◎年中行事

1月	本尊開帳法要	1月1日
	仁王会(にんのうえ)	1月1日～7日
	修正会(しゆしやうえ)	1月1日～7日
2月	仏名会(ぶつみやうえ)	1月8日～10日
	星まつり	1月28日～2月3日
	節分会	2月3日
	修二会(しゆにえ)	2月8日～14日
	だだおし法要	2月14日
3月	三社権現網懸祭(さんしゃごんげんつなかけさい)	2月上旬(旧1月11日)
	涅槃会(ねはんえ)	3月15日
	彼岸会(ひがんえ)	3月18日～24日
4月	弘法大師正御影供(こうぼうだいししやうみえく)	3月21日
	釈尊降誕会(しゃくそんこうたんえ)	4月8日
5月	ぼたんまつり	4月中旬～5月上旬
	専修僧正恩徳会(せんしやうじやうおんどくえ)	5月5日
6月	弘法大師誕生会(こうぼうだいしたんじやうえ)	6月15日
	興教大師誕生会(こうきやうだいしたんじやうえ)	6月17日
7月	愛宕社祭礼(あたごしゃさいれい)	7月24日
	盂蘭盆会(うらぼんえ)	8月13日～15日
9月	彼岸会	9月20～26日
	観月会	中秋の名月
10月	もみじまつり	10月1日～11月30日
	与喜天満宮祭礼	10月第3日曜日
12月	陀羅尼会(だらにえ)	12月12日
	本尊開帳法要	12月31日
	観音万燈会	12月31日～1月1日
	春季特別寺宝展	4月中旬～5月上旬
	秋季特別寺宝展	10月初旬～12月初旬

*一般に公開されていない行事もあります。*行事の日程などは変更になる場合もあります。

一年、一回。

毎年、元旦の本尊開帳法要、仁王会、修正会から、大晦日の本尊開帳法要、観音万燈会までさまざまな祈りの行事が行われます。なかでも2月の「だだおし」は、大和の冬の風物詩として広く知られている法要です。



だだおし 修二会が結願する2月14日に行われる法要で、無病息災、厄除け開運を祈願します。三匹の大鬼が燃えさかる松明を手に本堂の内外を駆け巡るさまは圧巻です。



観音万燈会 大晦日の夜、登廊の各段両側に灯がともされる万燈会。やさしい灯の帯が本堂へと誘います。その姿は新年を迎えるにふさわしく荘厳です。